

参考

【概要】  
平成21年度 民間住宅ローン利用者の実態調査  
【民間住宅ローン利用者編】（第1回）

## 1. 調査の概要

調査対象期間(平成21年3月～平成21年6月)に民間住宅ローンを借入された方を対象とし、利用された住宅ローンの金利タイプ別や住宅ローン選びに関する事項について、インターネットによるアンケート調査を実施(7/18～7/22)し、その結果を取りまとめたものである。回答数:1,183件。

## 2. 調査結果の主なポイント

### (1) 「変動型」利用割合は4割台、「全期間固定型」利用割合は概ね2割

- ・ 消費者の消費節約志向が徹底するなか金利水準の低い「変動型」の利用割合は引き続き4割台を維持し、「固定期間選択型」では金利割安感のある(10年)の利用割合が直近では25%まで増加。「全期間固定型」は、概ね2割で推移。 <p2>
- ・ 全年齢層を通じて、「変動型」の利用割合は4割を超えている。 <p4>
- ・ 今後の金利見通しは、「現状よりも上昇する」が46.1%、「少し上昇するが、それほど気にするほどではない」+「ほとんど変わらない」が合わせて38.2%、「変動はあるが、そのうち低下する」が4.5%。「変動型」の利用者は「全期間固定型」や「固定期間選択型」の利用者と比べて金利の先行きにやや楽観的な見方が多い傾向がみられる。 <p6>

今後の金利見通しは、『上昇する』と『概ね現状維持+下がる』がそれぞれ4割台で拮抗する中、「変動型」の利用割合は引き続き4割台を維持し、「全期間固定型」は2割台。先行き不透明感の強い現状においては、家計の節約志向の徹底から、当面の返済額の少なさを重視して、金利の低い「変動型」を選択しているものと考えられる。

※ 一般に「変動型」商品の適用金利は、半年毎に見直され、5年毎の返済額見直しに際して一定の措置があるのが一般的ですが、金利上昇が大きい場合、未払利息発生により、将来の支払いに課題を残す可能性があるため、「変動型」利用に当たっては十分な注意が必要です。

### (2) 住宅ローン選択の決め手は、圧倒的に“金利の低さ”

- ・ 住宅ローンを選んだ決め手は、「金利が低いこと」とする回答が69.8%と圧倒的多数である。「繰上返済手数料が安かったこと」が24.1%、「住宅・販売事業者(営業マン等)に勧められたから」が23.2%とそれに次いで多い。 <p13>

### (3) 希望どおりに住宅ローンの借入ができた方が8割超

- ・ 希望どおりに住宅ローンの借入ができた方は、全体の81.0%に達する。 <p15>